

『ベンダーから見たStiLLとは・・・』

2011年12月6日

日本ユニシス株式会社

吉川 正樹

【高生産性技術調査の評価ポイント】

◆カスタマイズの自由度

◆実現できる業務範囲

◆要求スキル

◆ツール／技術の対象用途

◆業界標準技術の観点

◆ツール依存障害発生時の保守サポート

◆ツール適応による工数削減効果

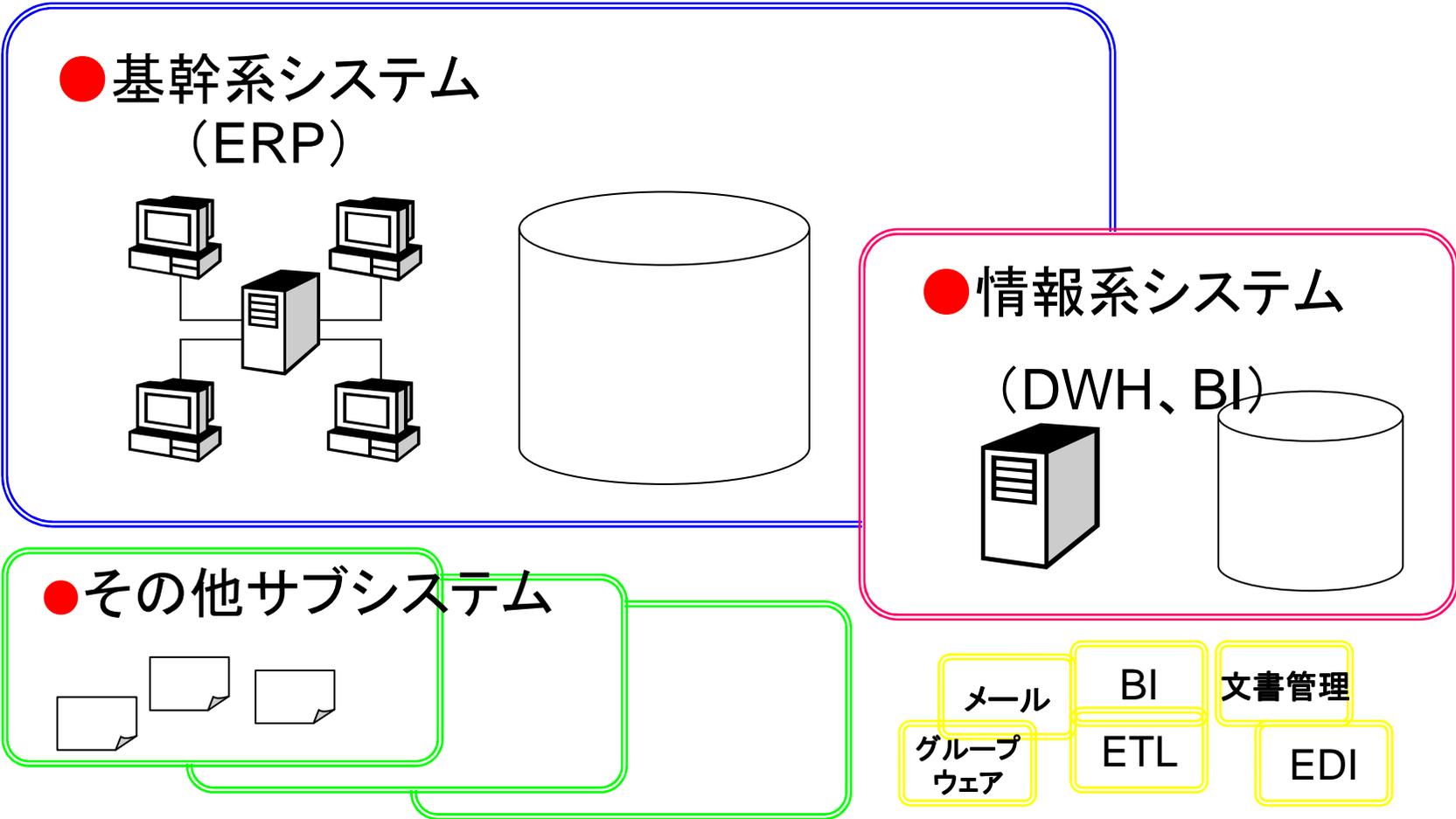
【高生産性技術調査の評価結果】

高生産性ツール **StiLL**

『日本ユニシスの

品質評価基準をクリア！』

企業にはいろいろなシステムが存在しています。



グローバル

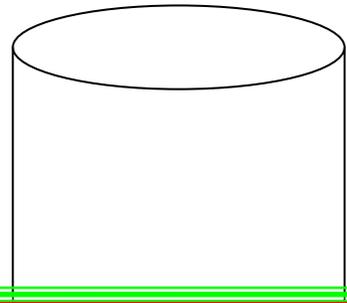
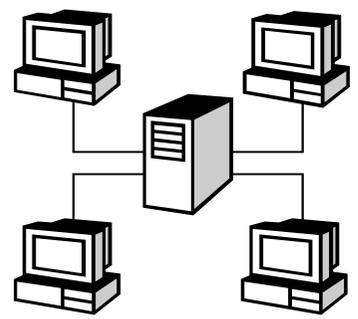
グローバル(海外・関係会社・取引先)

●グローバル支援系システム

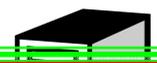
海外、関係会社からのデータ集計業務の自動化などシステム構築支援

全社

●基幹系システム (ERP)



●情報系システム (DWH、BI)



部門

●業務支援系システム



基幹システムとの連動など基幹データベースとのやりとりがあり、システム上複雑なシステム構築は**日本ユニシス**がご支援します。

個人

●EUC(エンドユーザ・コンピューティング)

簡易な業務自動化などはユーザ自らStiLLで構築が可能です。

ベンダーがStiLLを活用することでお客様に享受できるメリット

StiLLの活用によって実現すること

◆システム開発費の抑制

◆開発期間の短縮

◆システムの部品化と再利用(リユース)

◆プロトタイプ型開発アプローチ

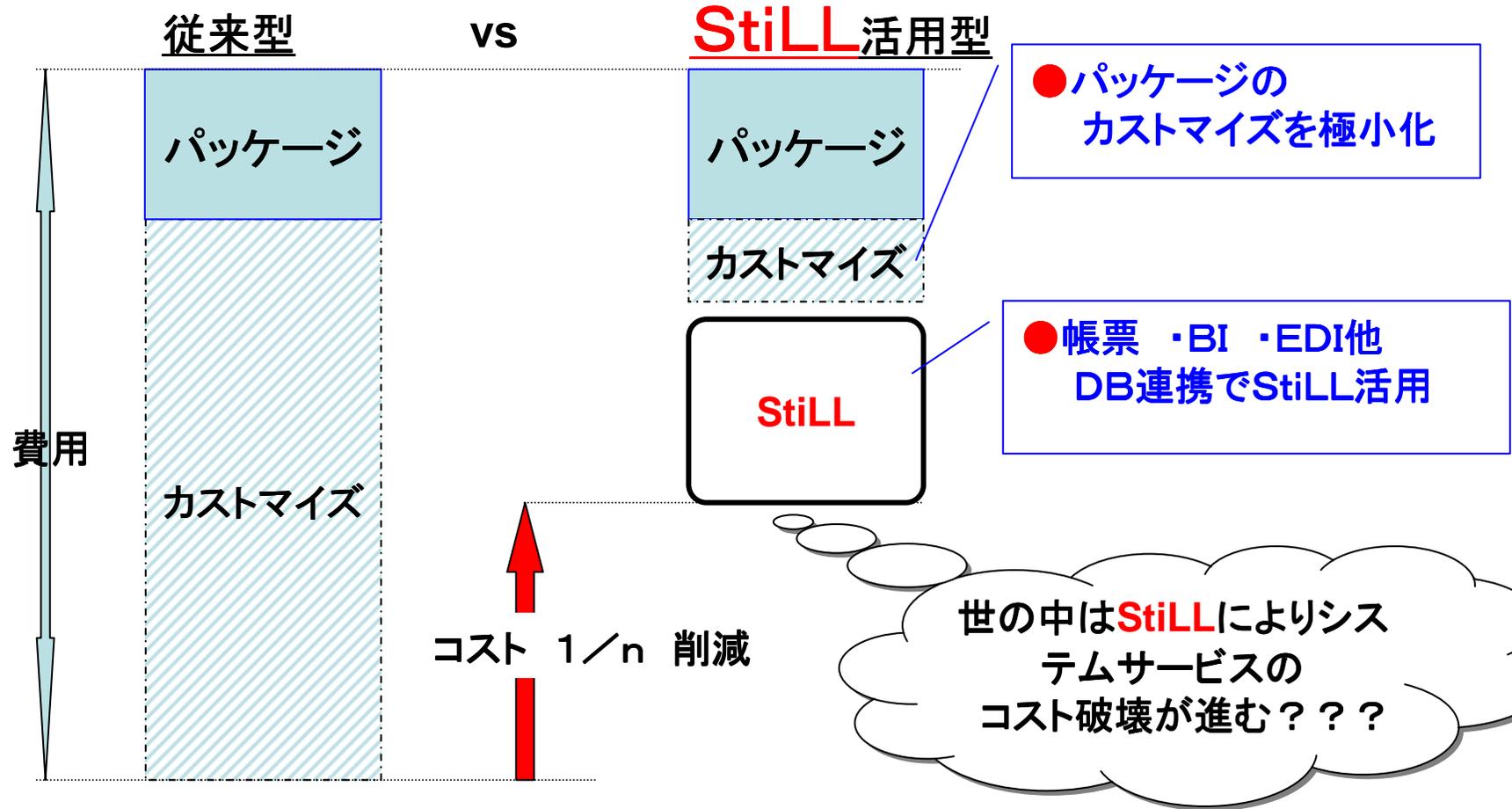
◆均一なシステム完成度

◆容易なメンテナンス

◆Windowsバージョンアップの悩みから開放

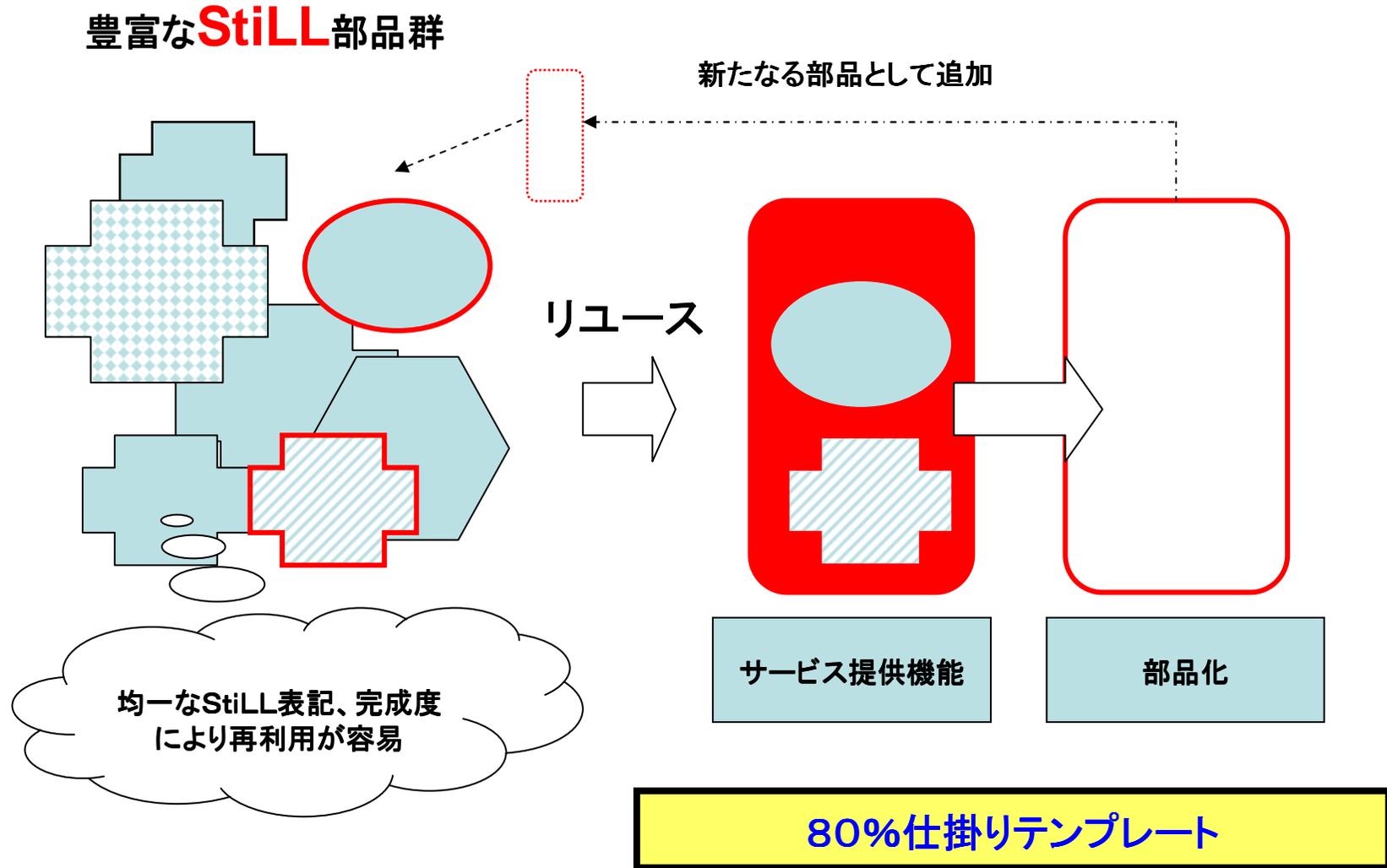
■ システム開発費の抑制

— StiLLを最大限に活用することでシステム費用を抑制—



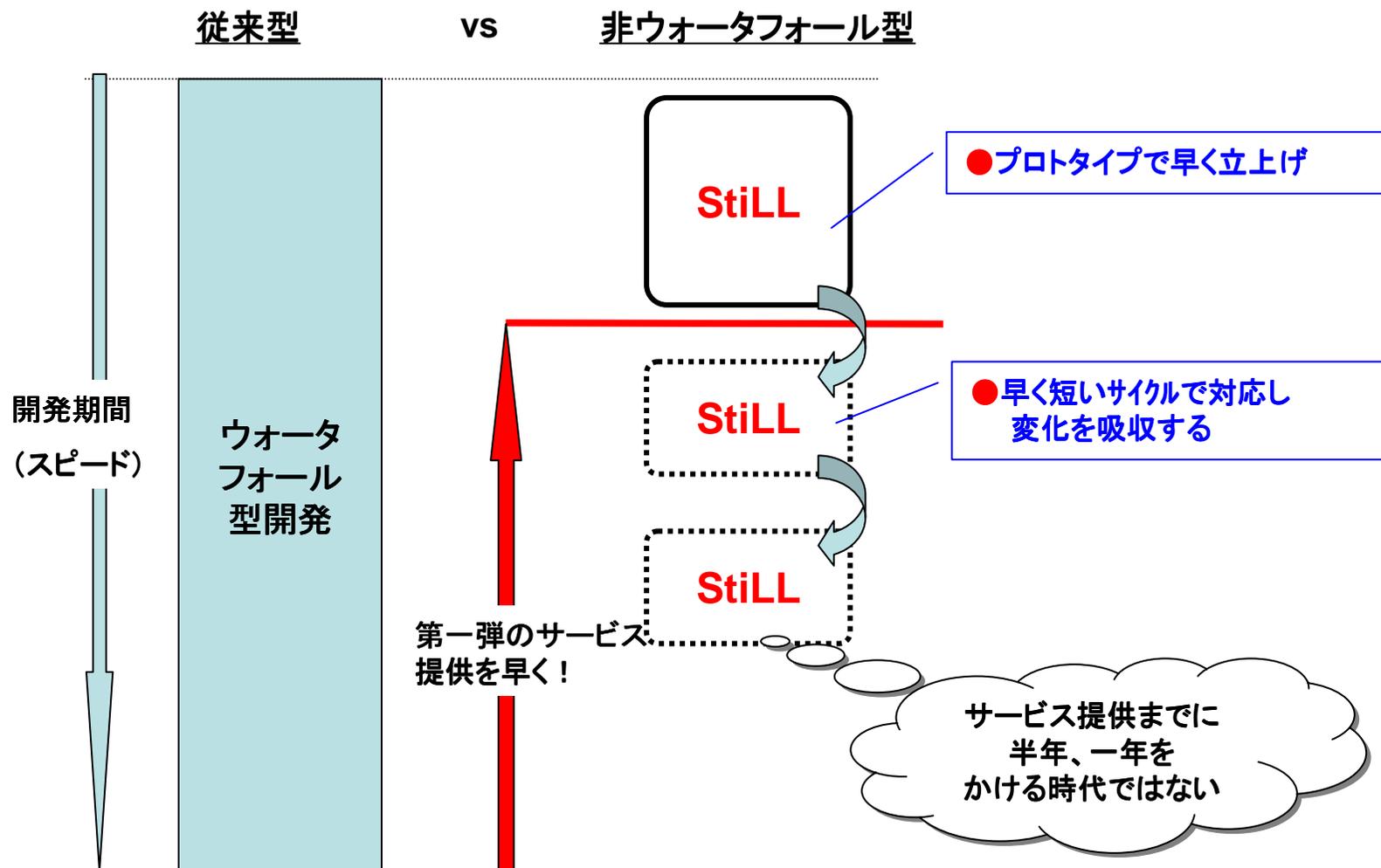
■ システムの部品化と再利用(リユース)

—徹底した再利用による 0ベース開発からの開放—



■ プロトタイプ型開発アプローチ

ースピードは、まさに変化への対応カー



■ StiLL成長ストーリー

